

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390101436		
法人名	医療法人社団 栄康会		
事業所名	グループホーム 菊南スマイル		
所在地	熊本市北区鶴羽田5丁目3番30号		
自己評価作成日	令和2年 11月 3日	評価結果市町村報告日	令和2年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年11月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

近隣に小学校や高校のグラウンド・公民館・神社等もあり、常に子供達や地域住民の方と触れ合える環境にある為、積極的に交流を深めている。敷地内に家庭菜園を設け、自治会の方々と一緒に野菜作りに取り組んでいる。施設設備もエコを重視し節電効果のある、太陽光発電システム・発熱交換システムを導入する事で、建物全体の温度差もなくなり、安全で健康な環境を整備している。又、関連法人で育てた無農薬野菜を使用する事で、安心・安全かつ、新鮮な旬の野菜を常時提供している事で、入居料金の低設定に繋がっている。当法人は医療法人の為、医療面では協力体制が整っている事から、本人様やご家族様には大変安心してご利用頂いている。2ユニットで構成しているが、ユニット間でも行き来し、入居者様同士がコミュニケーションがとれるよう努めている。基本理念に掲げているように、尊厳を持って生きがいと一緒に見つけ、心穏やかに生活できるよう、職員1人ひとりが入居者様に寄り添い、質の高いケアを目指している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所周辺には地域を見守り続けている神社や高校のグラウンドがあり、地域住民や子ども・学生の姿は事業所の日常生活のひとつのようです。民生委員を中心とする地域住民協力による庭の畑は今年も元気な野菜が育っており、住民との交流や、水撒きをしながら子どもの登下校を見守ったりと、感染症対策で地域との交流が難しいと言われる環境下においても変わらない交流の在り方を見ることが出来ました。庭仕事や趣味の継続もあり、イベントで大正琴を披露する入居者の様子も聞かれる等、入居者それぞれの生活を大切に、個別性を持ったケアがなされています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの特性を考え、スタッフ全員で作成した基本理念を、交流スペースとユニットの目につきやすい場所に提示している。また、運営推進会議等で、地域の方にも発信し、日々実践に向けて、全員で取り組んでいる。	設立以来の理念は各ユニットに掲示しており、唱和する機会を作っている。運営推進会議等で地域への啓発も行っている。	設立以降の基本理念の啓発に努められています。管理者交替を機会に職員で理念の振り返りを行い、理念や日頃のケア等、職員で話し合い共有する機会を持たれることを望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の出席者の自治会の方から、情報や協力を得ながら、地域の行事に参加している。又地域・家族との交流会を開催したり、施設の畑作りを一緒に手伝って頂いたりしながら交流を深めている。	開設以来、地域との関係作りに努めてきた。例年、子ども会活動や小学生の町探検受入れ等を行ってきた。民生委員でもある地域住民を中心として、事業所敷地での畑づくりは継続されており、入居者との日々の生活の関わりが見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	全体ミーティング時に勉強会を開催し、運営推進会議委員の方を通じて、地域の方々へ発信を行っている。地域のお祭りなどに参加して暖かく迎え入れてくれる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動報告書やホームの食事・利用者の日々の状況を報告し、質疑応答を行い、そこで発案された子供会との交流も深め、慰問等交流に取り組んでいる。	運営推進会議では入居者・事業所の報告等に加え、地域との意見・情報交換も活発に行われている。今年度は感染症対策の観点から書面での開催も数回行っているが、民生委員には直接書面を手渡す等、地域との関係継続に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者の方にも運営推進会議に参加して頂き、情報・意見交換を行ったり、インシデント等の報告を行いケアサービスのアドバイス等を頂きながら、協力関係を築いている。	運営推進会議には毎回地域包括支援センターからの参加があり、事業所の日頃の様子や取り組みを伝えている。今年度は感染症対策により、市担当者との報告・連絡・相談が密になった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中は行っていない。身体拘束委員による、身体拘束や虐待の勉強会を3ヶ月に1度定期的に開催し、介護保険内身体拘束禁止規定を掲示して全員に周知を行っている。又、毎月の身体拘束自己チェックシートの活用も取り組む予定である。	身体拘束委員会による勉強会を3ヶ月に1回行っており、身体拘束・虐待について学び、行わないケアを基本としている。入居者の突発的な状況等は身体図を詳細に記載し、考えられること等職員間で検討を重ね、対応策やその後のケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修にて、認知症特有の病名を理解し、不適切なケアが周辺症状を誘発し、如いては、虐待に発展していく事や、高齢者虐待防止法による虐待の定義についても勉強し、適切なケアを実践できるように取り組んでいる。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する事柄も全体会議で話し合い、基本的な人権や倫理とは何かを考え、質の高いサービスの提供が実践できるように心がけて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を二部作成し、説明と同意の了承の基、管理者が契約者と事業者間での契約を行っている。また、制度改正があった場合は、再度説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方に状況報告書をお渡しする際や運営推進会議にも参加して頂き、ご家族の方のご意向や小さな意見にも耳を傾けて、汲み取りながら日々のサービス提供に反映するよう心掛けている。	入居者それぞれの担当者により、毎月家族へ、食事状況等生活の様子を記した「状況報告書」を送付し、家族のコミュニケーション作り、意見の出しやすい関係作りに努めている。現状、感染症対策の観点から家族との面会が難しい状況が続いていることが現状である。	家族への状況報告書は項目毎に具体的に記載されている様子が窺えました。現状、家族との面会が難しい状況ではありますが、この状況が長引く場合に備え、入居者と家族の関係が希薄にならないような対策の工夫、職員や事業所へ意見を表すことの出来る状況作りへの工夫を望みます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員より業務に関しての意見を聞いたり、全体会議を開催し、各委員会での報告・提案等を聞く機会を設け、意見の反映に繋げている。	日々の業務の中で職員は管理者へ意見を伝えることが出来る。毎月の会議には本部からの参加もあり、意見は本部へ直接伝える機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じて、仕事出来るように、希望に沿った委員会を構成している。やりがいを持って業務に取り組めるように、職員の意向を汲み取りながら、日々の業務の残業については、残業手当を付与し、処遇改善加算による賃金UP・職場環境の改善や勤務の調整を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会への参加を促し、多くの職員が勉強会へ参加できるように取り組んでいる。また、職員が主体となって、勉強会を開催している為に、自発的に学んだ事を講師として、発表出来るような機会の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他部署の相互訪問や施設見学にて、意見交換やネットワーク作りを行い、サービスや質の向上に繋がる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人様に面談を行い、入居の際に安心して生活が出来るような支援体制を確保する為に、事前に身体状況や要望のアセスメントを行い、情報の周知を行っている。話しやすい環境をつくりご本人の意見を尊重している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様と面談を行った後、ご家族様とも面談を行い、ご家族様のご意向等の確認を行い、再度契約時に入居に関しての留意事項について説明を行い、ご家族の話にも耳を傾けその方らしい生き方ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の見学や面談の情報から、暫定の介護計画書を作成して説明し、アセスメントを行いながら、カンファレンスを繰り返し実施し、見極めた支援方法の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を持って、生きがいを一緒に見つけ、心穏やかに、共に生活出来るように支援している。また、個々の能力を活かした役割を担って頂き、互いに励ましあって関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちに寄り添いながらご意向を汲み取り、双方の関係性を構築できるような支援に努めている。ささいな事でも本人様、ご家族様に相談しながら、協力して頂ける事はお願いして連携を取り、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様のご意向を汲み取り、外泊や外出時の希望がある際には、積極的に支援を行っている。ご家族、友人の面会時も、ゆっくり過ごせるように努めている。	家族からの関わりを大切にし、友人知人の面会も積極的に受入れているが、今年度は感染症対策の観点から来訪による面会が難しい状況である。現状は日々の事業所での生活の中で、畑作り等を通じた地域住民との交流や、近隣への買い物等、新たな馴染みの関係継続の支援に努めている。入居者同士寄り添う姿もあり、新たな馴染みの関係性が出来た姿も見られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間で行き来をしたり、職員が介入しながら将棋やおしゃべりなど、円滑にコミュニケーションがとれる支援を行っている。また、個々の出来ない事を把握し、助け合い、互いに支え合える支援に努めている。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去・転院する際には、次の施設や病院などへの情報提供を行い、スムーズに移行できるように支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情を観察し、本人様の何気ない一言を大切にしている。月一度、ご家族様へ状況報告を行う際には、ご家族様の意向を汲み取り、カンファレンスにより、本人様の意向を尊重しながら、ケアに繋げている。	入居前からの生活歴を大切にし、それぞれの趣味や意向を尊重し、生活の場面での役割作りも考えた生活を支援している。日々の意向は生活の中で汲み取り、家族からの意向も確認しながらケアを行っている。	訪問時には、入居者それぞれへの「個別ケア」に力を入れている様子が窺えました。個別ケアを行う上で、事業所としての標準的なケアの確立や統一、日々の生活の中での職員間の声掛けによる情報共有等も必要と考えます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際には、前任の介護支援専門員やご家族様から、情報収集を行い、利用までの経過等、フェースシートを作成している。また、日々の経過記録を取りながら、カンファレンスを開催して、統一したケアの支援が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	リズム表やバイタル表に、一日の食事量や水分量・排泄リズム等を記録し、心身状態については、生活の記録へ記載している。変化がある場合には、特記事項への記載も行い、一人一人が個々のペースで生活出来るように、記録から状態把握・周知が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の状況報告書を担当者が作成し、課題やリスクの把握に努めている。状態の変化やケア方法に関して、カンファレンスを実施し、必要がある場合は、その都度介護計画書の更新を行い、ケアの統一が出来るように努めている。	日々の業務日誌を基に担当者が1ヶ月の排泄・食事・入浴等の「状況報告書」を作成し、長期目標・短期目標についての評価を3段階で行う。職員間で話し合う必要が生じた際には場を設け、見直しは半年を基本とする。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア・受診等について、生活の記録や申し送りノート・リズム表に記載し、受診・特記事項等は、蛍光ペンで囲い、スタッフ全員が周知できるように工夫している。また、個別の支援経過記録を記載し、モニタリングの際に経過を振り返る資料として活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務を振り返る為に、毎月全体ミーティングを行い、入居者の方の意向を集約し、業務の改善に繋げている。職員には気付きメモを配布して、日々の業務での問題点や具体的な改善案などを記載し、業務やケアの実践に生かしている。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の自治会や民生委員・子供会の方々と連携をとりながら、地域の老人会や夏祭りへ参加したり、施設行事での敬老会等には、子供会の慰問もあり、楽しんだ生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の支援を行い、かかりつけ医と連携が取れるように、看護師がDrに日々の状況を報告している。必要時には、書面にて状況報告書の提出も行っている。ご本人様・ご家族様の要望も汲み取りながら、入居前からのかかりつけ医との関係を継続して支援出来るように取り組んでいる。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。系列の医療機関を利用の際は職員付き添いによる通院、近隣にある協力医からは往診が行われている。その他医療機関利用は家族介助による通院を依頼している。現状は協力医による往診の入居者が多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回のバイタル測定を行い、本人様の状態・排便状況等を朝礼の際に申し送りしている。また、日常の関わりでとらえた情報や気づきを業務日誌・リズム表へ記載し、各勤務帯でも申し送りを行っている。内服薬の確認事項では、他職種間での2重チェックを行い、適切な受診が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、基本情報の提供等を行い、受診時に医療機関との連携に努めた支援を行っている。退院時には、送迎等の調整や入院時の状況把握等の為にも、訪問して面談を行ったり、看護サマリーや診療情報提供書の情報にて、関係機関とも連携を行いながら、再入居の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化及び看取りについての説明を行い、協力医療機関との連携も図りながら、支援を検討する旨をお伝えしている。入居中も、本人様のご意向が聞かれた場合には、記録に記載している。重度化した際には、ご家族様の意向の変化等も聞き取りながら、再度、本人様やご家族様の意向を汲み取っていけるように努めている。	重度化や終末期を迎えた際の対応は、家族・医療機関等関係者で話し合いを重ね、その時々、入居者にとって最善の方法を話し合いながら支援を行っている。現状、医療機関への入院を希望される例も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1回の全体会議及び勉強会を活かし、急変時や事故発生時の対応についても学んでいる。また、消防署職員による、救急蘇生法の講習にて、実践力に繋げた取り組みを行った経緯もある。職員には緊急連絡網を配布して、連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全体会議及び勉強会を活かし、災害時の対応策等も検討している。また、消防署職員立ち合いの元、避難訓練も実施し、適切な指導・助言等を頂きながら、災害時に備えた対策を行った経緯もある。	年2回の避難訓練を行っている。立地的に自然災害は少ない地域と思われるが、「災害時の避難誘導について」を策定し、入居者それぞれの身体状況・認知力により対応を色分けし、避難に備えている。	火災だけでなく、熊本県では想定外の災害が見られたこの数年でした。避難訓練実施だけでなく、様々な状況において、全職員で実施状況や反省を共有する機会作りを期待します。

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議を通して、ケアの方法や尊厳の保持に関わる勉強会や話し合いを行い、倫理的な勉強会も開催し、人として守り行うべき道や、本人様を尊重した言葉かけを行うよう努めている。	会議時、尊厳をもったケアについての勉強会や話し合いの機会を持っている。日々の生活の中で職員対応時に入居者の個人的な話題が出る際には、それとなく場所を変えたり等の配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも、衣服の選択や好みの食物等、色々な自分好みの選択ができるよう、自己決定しやすい質問の声掛けをして、希望の自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースに合わせ、本人様の意向を汲み取り尊重した生活の支援を行っている。又1日の始まりには、業務の調整を行い、入居者様の意向に沿って支援出来るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時には洗顔・ヘアセット・髭剃り等の支援も行い、衣服の選択など、ご本人様と一緒に身だしなみに気を付けた支援を行っている。また、訪問美容室時に、希望の白髪染めができ、おしゃれを楽しむ支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、食事の下ごしらえや味見なども一緒に行っている。どうしても苦手な食物やアレルギーがある場合は、違うメニューにて提供しながら、食事の時間を楽しく頂いて。また、食後には、生活リハビリの一つとして捉え、お膳拭きなども手伝って頂いている。	2ユニットで考えられた献立を基本とし、それぞれのユニット職員手作りによる食事を提供している。法人の農園から届く新鮮野菜を使い、季節の野菜をふんだんに使った献立である。季節行事や誕生日メニュー、おやつ等、食事には入居者の好みも反映している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食のご飯類に関しては、本人様の好みや体調に合わせた提供を行い、2度炊きや全粥の提供も行っている。副食についても刻み食や一口大で提供し、水分等も一日の必要量を確保した提供を行っている。栄養バランスを考えたメニュー表も作成し、バイタル表やリズム表に毎食摂取量を記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行い、舌ブラシやスポンジブラシを使用するなど、一人ひとりの口腔状態に合わせた、口腔内の清潔保持に努めた支援を行っている。また、磨き残しがある場合は、磨き直しを行い、夜間帯には義歯などを管理し、義歯洗浄剤にて除菌している。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	施設にてオムツ類の管理を行い、リズム表にて排泄パターンを確認し、昼夜とも、トイレ誘導やトイレ介助の排泄の自立に努めた支援を行っている。また、尿側を行い、無駄のないように、オムツの軽減に努めている。	現状、入居者の介護度・身体状況が様々であることから、自立から二人介助まで、入居者の状況に合わせた対応を行っている。出来るだけトイレでの排泄を支援し、安易なオムツへの意向は行っていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リズム表にて最終排便を夜勤帯でチェックし、便秘予防の為に食物繊維の多い食材の提供を行ったり、運動をするなど予防に努めている。排便が出ていない場合には、看護師にて腹部膨満等の確認を行い、冷たい牛乳等の提供を行っている。また、かかりつけ医にも上申し、内服薬での排泄支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の方の希望のタイミングや意向も汲み取りながら、週に2回の入浴支援を行っている。個々の状態に応じた入浴支援を行い、訪問美容室日は、できるだけ散髪後に入浴支援を行っている。	入居者の日々の体調や意向も考慮し、週2回の入浴を基本としている。各ユニットに浴室があり、片ユニットには機械浴も設置されていることから、身体状況で使い分けている。過度な手出しをせず、見守り、声掛け、最終的な手伝い等、入居者の持つ力を把握し個別性を持ったケアを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活リハビリの中で、10時や15時には水分補給とおやつなどを提供し、TV体操も行いながら、生活のメリハリが持てるような支援を行っている。定期的な受診により、夜間の入眠状況等も上申しながら、内服薬での入眠を促した支援も行っている。また、本人様の生活習慣を考慮し、状況に応じた安眠の支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後には薬情をカルテに綴じて、受診後には蛍光ペンにて、生活の記録にも記載し、情報共有できるように取り組んでいる。内服薬のセットは、2重チェックを行って確認し、内服後には、リズム表やバイタル表に与薬者名を記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、楽しみや個々の能力や生活歴を把握して、簡単な家事を実施し、本人様の残存機能を活かし、役割が持てる支援を行っている。天気の良い日には、気分転換の為に散歩に出かけたり、庭での日光浴等を行っている。また、喫煙をされる利用者様には、庭の喫煙コーナーにて喫煙して頂き、日々の楽しみとして支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日の外出支援は行っていないものの、行事等の企画を立てて、地域の夏祭りへの参加やレクリエーション等を行い、外出支援を行っている。また、近隣への散歩や外でしゃぼん玉遊び等を等を行い、ご家族との外出やドライブを楽しんで頂く支援を行なっている。	今年度は、感染症対策の観点からドライブや計画による外出は行われていないが、近隣への散歩や庭の畑を楽しんだり、喫煙のため外で時間を過ごすことは日常的に行われている。周辺はグラウンドや神社等、散歩に恵まれた環境である。通院等を利用した家族との外出も継続して支援している。	

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金銭管理を行い、病院受診時や必要なものがある時・本人購入希望時には、預り金にて支払を行っている。また、買い物レク等の時には、できるだけ、本人様の手から支払うなど、それぞれの力に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様が家族の声を聞きたい時や、用事がある時等、電話したり取り次いだりして、安心して頂いている。また、はがきを出したい時は、本人様に書いて頂き、スタッフが書き添えたりして、自由にやりとり出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域交流スペースを中心に開放感ある空間作りを行っていたが、スタッフとの馴染みの関係を構築したり、見守り支援を強化する為にも、各ユニットを区分けして、生活支援を行っている。地熱利用換気システムの採用やペアガラスによる、断熱効果なども行い、天井には天窓を設置して自然光を取り入れた作りとなっている。施設内の感染予防の為に、次亜塩素酸加湿器を設置して、空気清浄も行っている。	ユニットの間に作られた地域交流スペースを中心にリビングへと続いており、広々とした空間がある。地熱を利用した建物で温かみがあり、リビングでは1時間ごとの換気や次亜塩素酸による空気清浄等、感染症予防への配慮も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには一人ひとりがくつろげるように席を配置している。交流スペースや各ユニット毎にソファを設置し、だれもがくつろげるような空間作りを行い、気の合う利用者様で語りあいながら過ごせる居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全部屋個室使用での対応となり、本人様の状態や好みに合わせた間取りの配置を行っている。入居時には使い慣れた馴染みある家具類やテレビの持込、また、家族の写真を飾ったりして、自宅の雰囲気になくなるような、居心地良い居室作りを行っている。	ベッドが備え付けられた居室入口には入居者それぞれによりのれんが掛けられており、入居者手作りののれんも見られる。居室の掃除は入居者も参加し、気持ち良い空間となっている。生活用品は様々で、手作り・好みの品や、懐中電灯を置いたり等、それぞれの生活の様子が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用スペースには余分な物を置かず、バリアフリーの空間を活かした環境作りを努めている。床面にもクッション素材の物を使用していて、転倒時の骨折のリスクを軽減できる環境作りを行っている。また、省エネルギーにも配慮して、太陽光発電の設置や樹脂サッシで、冷暖房に備えた作りとなっている。廊下やドアは、トイレへ独りで行く時に、安全に分かりやすくするために、表示や目印を貼っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの特性を考え、スタッフ全員で作成した基本理念を、交流スペースとユニットの目につきやすい場所に提示し実践にむけて取り組んでいる。また、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議の出席者の自治会の方から、情報や協力を得ながら、地域の行事に参加している。又地域・家族との交流会を開催したり、施設の畑作りを一緒に手伝って頂いたり、慰問にきていただく等交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	全体ミーティング時に勉強会を開催し、運営推進会議委員の方を通じて、地域の方々へ発信を行っている。小学生の町探検や、授業の一環として、施設へ訪問して頂き、認知症の方のグループホームでの生活を知って頂く機会を積極的に受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で活動報告書やホームの食事・利用者の日々の状況を報告し、質疑応答を行い、そこで発案された子供会との交流も深め、夏休みの除草作業や、敬老会の慰問等交流に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	熊本市地域包括支援センターの職員の方にも運営推進会議に参加して頂き、意見交換を行い、協力関係を築き、地域での養成講座等の情報を頂きながらサービスの質の向上を図る連携を築けるよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中は行っていない。身体拘束委員による、身体拘束や虐待の勉強会を3ヶ月に1度定期的に開催し、介護保険内身体拘束禁止規定を掲示して全員に周知を行っている。又、毎月の身体拘束自己チェックシートの活用も取り組む予定である。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修へ参加して、勉強会を開催し、認知症特有の症状や病名、周辺症状を誘発しないように周知徹底している。また、常に色々な虐待を見過ごさないように、利用者様のスキンチェックを行い、皮下出血等あった場合身体図に記載行っている。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の外部研修へ参加し、勉強会で資料を配布して、周知徹底を行っている。基本的な人権や倫理とは何かを考え、質の高いサービスをできるように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を二部作成し、説明と同意の了承の基、管理者が契約者と事業者間での契約を行っている。また、制度改正があった場合は、再度説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方に状況報告書をお渡しする際や運営推進会議にも参加して頂き、ご家族の方のご意向や小さな意見にも耳を傾けて、汲み取りながら日々のサービス提供に反映するよう心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝朝礼を実施し、職員より業務に関しての意見を聞いたり、月に一度は、全体会議を開催し、各委員会での報告・提案等を聞く機会を設け話し合い、意見の反映に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に応じて、仕事出来るように、希望に沿った委員会を構成している。やりがいを持って業務に取り組めるように、職員の意向を汲み取りながら、日々の業務の残業については、残業手当を付与し、処遇改善加算による賞金UP・職場環境の改善や勤務の調整を行っている。また個々の努力や実績、勤務状況を把握し、賞与等に反映できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修会への参加を促し、研修を受ける配慮を行っている。研修後は、報告書を作成し、職員全員で閲覧できるようにしている。また、介護支援専門員の専門研修への参加や、介護福祉士実務者研修の参加を推奨し、参加しやすいように勤務の調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他部署との請求時の相互訪問チェックや、スタッフの施設見学を設けている。又、同業者の運営推進会議へ出席して、意見交換やネットワーク作りを行い、入居者様へのサービスや質の向上に繋がる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、本人様とも面談を行い、安心して生活出来るような支援体制を確保する為にも、事前に身体状況や意向の把握を行っている。また、スタッフへも情報の周知を行う事で、安心した生活の援助が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とも面談する機会を設け、ご要望や意向の確認を行い、入居の際の説明も行っている。また、契約時には、再度入居に関しての留意事項について説明をする事で、信頼関係の構築にも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や基本情報等から意向の確認を行い、暫定の介護計画書を作成して、説明しお渡ししている。また、再アセスメント・カンファレンスを行い、支援方法を見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力を活かした役割を担って頂き、過去の体験談や豊富な人生経験をお話しして頂く事で、職員も仕事を通じて勉強し、相互扶助の関係が構築出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の気持ちにも寄り添いながら、意向を汲み取り、本人様のご希望等も代弁していきながら、双方が良好な関係性を保ちつつ、本人様を共に支援出来る様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様・ご友人の面会時もゆっくり居室や、地域交流スペース等で過ごせるよう努め、関係性が途切れないように心がけている。また、地域の夏祭り等へも参加が出来る様に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入しながら、円滑にコミュニケーションがとれる支援を行っている。また、個々の出来る事、出来ない事を把握して、お互いに支え合えるような良好な関係性が持続出来るように努めている。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去・転院する際には、次の施設や病院などへの情報提供を行い、スムーズに移行できるような支援を行っている。また、その後も面会に伺ったり、ご家族が電話や相談しやすい対応に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居する際には、前任の介護支援専門員やご家族様から、情報収集を行い、利用までの経過等、フェースシートを作成している。また、日々の経過記録を取りながら、カンファレンスを開催して、統一したケアの支援が出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する際には、前任の介護支援専門員やご家族様から、情報収集を行いフェースシートを作成し、暫定の介護計画書を作成し、馴染みの暮らし方を出来るだけ変えないように努めている。また、日々の経過記録を取りながら、問題があれば、カンファレンスを開催して、統一したケアの支援が出来るよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	リズム表やバイタル表に、一日の食量や水分量・排泄リズム等を記録し、心身状態については、生活の記録へ記載している。変化がある場合には、特記事項への記載も行い、一人一人が個々のペースで生活出来るように、記録から状態把握・周知が出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の状況報告書を担当者が作成し、課題やリスクの把握に努めている。状態の変化やケア方法に関して、カンファレンスを実施し、必要がある場合は、その都度介護計画書の更新を行い、ケアの統一が出来るように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア・受診等について、生活の記録や申し送りノート・リズム表に記載し、受診・特記事項等は、蛍光ペンで囲い、スタッフ全員が周知できるように工夫している。また、個別の支援経過記録を記載し、モニタリングの際に経過を振り返る資料として活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務を振り返る為に、毎月全体ミーティングを行い、入居者の方の意向を集約し、業務の改善に繋げている。職員には気付きメモを配布して、日々の業務での問題点や具体的な改善案などを記載し、業務やケアの実践に生かしている。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の自治会や民生委員の方々と連携をとりながら、ホームの畑作りや収穫を手伝って頂いている。また、近隣の店に買い物と一緒にいくなど、地域の方々と交流ができるような暮らしを楽しむ支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の支援を行い、かかりつけ医と連携が取れるように、看護師がDrに日々の状況を報告している。必要時には、書面にて状況報告書の提出も行っている。ご本人様・ご家族様の要望も汲み取りながら、入居前からのかかりつけ医との関係も継続して支援出来るように取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回のバイタル測定を行い、本人様の状態・排便状況等を朝礼の際に申し送りしている。また、日常の関わりでとらえた情報や気づきを業務日誌・リズム表へ記載し、各勤務帯でも申し送りを行っている。内服薬の確認事項では、他職種間での2重チェックを行い、適切な受診が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、基本情報の提供等を行い、受診時に医療機関との連携に努めた支援を行っている。退院時には、送迎等の調整や入院時の状況把握等の為にも、訪問して面談を行ったり、看護サマリーや診療情報提供書の情報にて、関係機関とも連携を行いながら、再入居の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に重度化及び看取りについての説明を行い、協力医療機関との連携も図りながら、支援を検討する旨をお伝えしている。入居中も、本人様のご意向が聞かれた場合には、記録に記載している。重度化した際には、ご家族様の意向の変化等も聞き取りながら、再度、本人様やご家族様の意向を汲み取っていただけるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1回の全体会議及び勉強会を活かし、急変時や事故発生時の対応についても学んでいる。また、消防署職員による、救急蘇生法の講習にて、実践力に繋げた取り組みを行った経緯もある。職員には緊急連絡網を配布して、連絡体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回の全体会議及び勉強会を活かし、災害時の対応策等も検討している。また、消防署職員立ち合いの元、避難訓練も実施し、適切な指導・助言等を頂きながら、災害時に備えた対策を行った経緯もある。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月に1回の全体会議を通して、ケアの方法や尊厳の保持に関わる勉強会も開催している。倫理的な勉強会も開催し、人として守り行うべき事や言葉かけ等も、人として当たり前な事を当たり前に行う事を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でも、本人様の意向を汲み取り、選択できるような問いかけを行い、常に自己決定ができるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望や体調を汲み取り優先し、本人様の意向や想いを尊重する為にも、1日の始まりには、業務の調整を行い、入居者様の意向に沿った支援が出来るように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの際には、洗顔・髭剃り等の支援も行い、衣服の選択等、ご本人様と一緒に身だしなみにも気を付けた支援を行っている。また、離床時には、ヘアセットと着衣のみだれに注意した支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の能力に応じて、食事の下ごしらえや味見等も行っている。食後には、生活リハビリの一つとしてお膳拭き等も行っている。食事も、本人の体調に合わせた形態にして、摂取時間も本人の生活リズムに合わせて提供し、本人が楽しみながら食事が出来るよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の好みや体調、嚥下状態に合わせ、トロミを付けたり、お茶をゼリー食で提供行う等、一日の水分量の確保ができるように、バイタル表やリズム表に、水分・食事摂取量を記入している。食事量や食事形態も、それぞれの活動量や栄養状態にも配慮して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、磨き残しがないようにチェックを行っている。歯科往診や受診時に口腔ケアの指導を受け適切なケアに努めている。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	施設にてオムツ類の管理を行い、リズム表にて排泄パターンを確認しながら支援を行っている。また、出来るだけトイレにて排泄が出来る様にも努めている。パット変更時も、カンファレンスや尿側を行い、オムツの軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リズム表にて最終排便を夜勤帯でチェックし、便秘予防の為に食物繊維の多い食材やヨーグルト・牛乳の提供を行っている。水分補給にも努め、排便が出ていない場合には、看護師にて腹部状態の確認を行い、かかりつけ医にも上申し、内服薬での排泄支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の方の体調、意向も汲み取りながら、週に2回の入浴支援を行っている。リフト浴等、個々の状態に応じた入浴支援を行い、入浴が楽しみと思える支援に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活リハビリの中で、10時や15時には水分補給・おやつ等を提供し、摂取前には、TV体操等も行い、生活のメリハリが持てるような支援に努めている。定期的な受診により、夜間の入眠状況等も上申しながら、内服薬での入眠を促した支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後には、薬の説明書をカルテに綴じて、内服薬のセット時などにも、看護師と連携を取りながら、2重チェックを行って、確認をしている。また、受診後には蛍光ペンにて、生活の記録にも記載し、情報共有出来るように取り組んでいる。内服後には、リズム表やバイタル表に与薬者名を記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、個々の能力に応じて、野菜類の皮むき・料理の味見・洗濯物たたみ・お膳拭き・レジ袋の折りたたみ・除草作業等を実施し、本人様の残存機能を活かした支援に努めている。天気の良い日には、施設周辺へ散歩に出かけたり、喫煙等にて、気分転換が出来る様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の外出支援は行っていないものの、行事等の企画を立てて、地域の夏祭りへの参加や買い物レクリエーション等を行い、外出支援を行っている。また、日々の買い物や施設内の除草作業等も一緒に行いながら、気分転換に努めた支援を行っている。		

グループホーム菊南スマイル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の金銭管理を行い、必要なものがある時には、預り金にて支払を行っている。また、買い物レク等の時には、お金を自分で払い、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望で電話したり、取り次いだりしている。また、本人様の状態を状況報告書として、毎月、ご家族様へお渡ししている。年始には、各担当者と一緒に年賀状をご家族様へ出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域交流スペースには、利用者様の日々の写真を掲示し、玄関には、季節感のある物を飾る事で、季節を感じ楽しんで頂いている。地熱利用換気システムの採用やベアガラスによる、断熱効果等も行い、天井には天窓を設置して、自然光を取り入れた作りとなっている。施設内の感染予防の為に、次亜塩素酸水の加湿器を設置して、空気清浄にも努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、一人一人の席を設けて、交流スペースや各ユニット毎にソファを設置し、誰もがくつろげるような空間作りを行っている。リビング等では、DVDや音楽鑑賞等も出来るような環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全部屋個室使用での対応となり、本人様の状態に合わせた間取りの配置を行っている。入居時には使い慣れた家具類の持ち込みもお願いし、馴染みのある空間作りを行っている。入居者様の希望に応じて、TV等の持ち込みも行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床面には、クッション素材の物を使用していて、転倒時の骨折のリスクを軽減できる環境作りを行っている。また、省エネルギーにも配慮して、太陽光発電の設置や樹脂サッシ・床暖房にも備えた作りとなっている。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホーム菊南スマイル

作成日 令和2年 12月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	職員間の情報共有が出来ていなく、ケアの統一ができていない。	情報共有ができケアの統一を図る。	声掛け、申し送りの徹底を行い周知徹底する。	12カ月
2	10	コロナ禍で以前のように面会ができない。	関係性が希薄にならないように構築する。	状況に応じて短時間での面会や定期的に連絡をしたり、写真つきのお手紙をお送りし近況報告行う。オンライン面会を取り入れる。	6カ月
3	1	開所当時からの理念であったがいくつもあり職員にも周知不足であり、ご家族地域の方々への浸透もできていなかった	掲げた理念を職員は勿論の事、ご家族、地域の方々に浸透させる。	全体会議にて理念について話しあいをし1つに絞りその理念に掲げた支援を行い、ご家族、地域の方々に発信する。	12カ月
4	35	様々な災害を想定した実地状況を共有できていない。	災害がおきた時に慌てず、安全に行動する。	全職員で様々な災害を想定した意見交換や訓練を行う。	12カ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。